

熱中症予防のための新たな情報発信「熱中症警戒アラート」について

R3.4

環境省・気象庁

令和3年4月28日より全国で本格実施

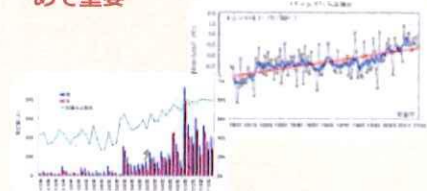
環境省 × 気象庁

熱中症警戒アラート

環境省・気象庁が新たに提供する、暑さへの「気づき」を呼びかけるための情報。熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予測される際に発表し、国民の熱中症予防行動を効果的に促す。

1. 背景

- 熱中症による死亡者数・救急搬送人員数は増加傾向にあり、気候変動等の影響を考慮すると熱中症対策は極めて重要




2. 発表方法

- 高温注意情報を、熱中症の発生との相関が高い暑さ指数(WBGT)を用いた新たな情報に置き換える

暑さ指数(WBGT)とは、人間の熱がぶりに影響の大きさを表す指標です。

気温 湿度 放射熱

※各地域の暑さ指数は環境省の熱中症予防情報サイト参照

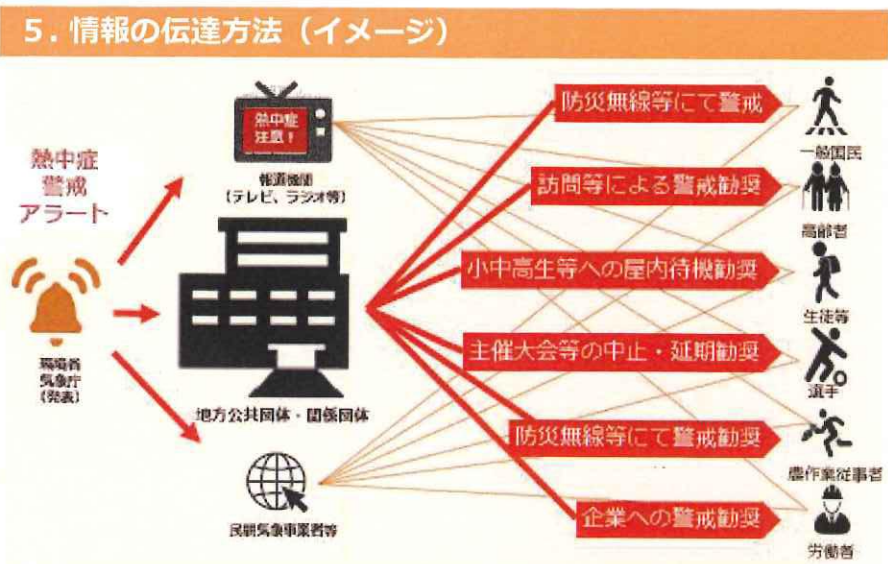


3. 発表の基準

- 府県予報区内のどこかの地点で暑さ指数(WBGT)が33以上になると予測した場合に発表

暑さ指数(WBGT)	健康への危険性	日常生活での注意事項	熱中症予防の留意点
33以上	非常に高い	長時間の屋外作業や運動は避け、水分をこまめに補給する。	熱中症の発生に注意し、特に高齢者や子ども、障害者等には声をかける。
30-33	高い	長時間の屋外作業や運動は避け、水分をこまめに補給する。	熱中症の発生に注意し、特に高齢者や子ども、障害者等には声をかける。
25-30	中程度	長時間の屋外作業や運動は避け、水分をこまめに補給する。	熱中症の発生に注意し、特に高齢者や子ども、障害者等には声をかける。
21-25	低い	長時間の屋外作業や運動は避け、水分をこまめに補給する。	熱中症の発生に注意し、特に高齢者や子ども、障害者等には声をかける。

注1) 日本生気象学会指針より引用
注2) 日本スポーツ協会指針より引用



6. 発表時の熱中症予防行動例

- 熱中症の危険性が極めて高くなると予測される日の前日または当日に発表されるため、日頃から実施している熱中症予防対策を普段以上に徹底することが重要。

(例)

- 不要不急の外出は避け、昼夜を問わずエアコン等を使用する。
- 高齢者、子ども、障害者等に対して周囲の方々から声をかける。
- 身の回りの暑さ指数(WBGT)を確認し、行動の目安にする。
- エアコン等が設置されていない屋内外での運動は、原則中止/延期をする。
- のどが渇く前にこまめに水分補給するなど普段以上の熱中症予防を実践する。

7. 令和3年度以降の検証について

- 令和3年度の全国展開以降、定期的に「熱中症警戒アラート」の発表状況等を踏まえた検証を実施し、効果の算出に努める。
- 継続的に検証を重ね、今後の熱中症対策の課題改善に繋げる。